

海辺のグランドデザイン【概要版】

- 1 策定の趣旨
- 3つの人工海浜と2つの海浜公園からなる海辺エリアは本市固有の地域資源。
 - 都市の魅力向上・市民生活の充実・地域経済の活性化等を図るため、そのポテンシャルを活かして20～30年先を見据えた活性化の方向性を示すもの。
 - 策定後、市民・企業・行政で共有し、自主的な取り組みと積極的な参加を促進。

- 2 策定の方法
- ◆千葉大学との共同研究（平成25年度）
 - ・基礎調査として小学生・学生等のワークショップを実施。
 - ◆市民等によるワークショップ（平成26年度）
 - ・将来像と具体策を検討。一般公募の市民と市民団体が構成。
 - ◆市民意見募集（平成27年度）
 - ・市民意見募集を実施。113人・団体より249件の意見等。

- 3 グランドデザインの特徴
- ◎3つの人工海浜と2つの海浜公園を一体的な空間と捉え、ゾーンの特徴に応じた活性化フレーム（枠組み）やその方向に沿った方策のイメージを提示。
 - ◎海辺エリアと隣接する市街地の回遊性創出のための方針・方策を位置づけ。
 - ◎ハード・ソフトの両面から、民間活力導入・市民参画など官民連携で取り組む。

4 活性化のコンセプト

取り組みの方向性

①海辺の豊かな自然や風景を活かす

②民間の強みを活かした官民連携によるまちづくりを進める

③地域の特性・歴史を活かし和の文化や千葉市らしさを発信する

④日常性と非日常性を併せ持つ都市空間を活かす

⑤国内外から多くの人々が訪れる地とする

⑥多様な世代に対応し、新たなスタイルを提案するまちづくりを進める

活性化のコンセプト

海辺とまちが調和するアーバンビーチ

都市の海辺ですごく 新しいライフスタイルの提案

6 実現に向けた取り組み

(1)基本的な考え方

視点1 新規施設の導入

民間活力の導入

既存施設の拡張・改修

施設の効率的な運営

視点2 既存ストックの有効活用

既存ストックの活用

周辺施設との連携

視点3 参画の促進と支援

まちづくりの活動支援

情報発信

(2)体制・しくみの整備

①庁内の推進体制

- 海辺のグランドデザインに即した稲毛海浜公園の再整備に関する基本計画の作成
- 千葉県の管理施設における事業化に向けた協議・調整
- 庁内関係課・関係機関との協議・調整による官民連携による整備・管理運営スキームの構築

②海辺エリアのマネジメント組織の設置

- 市民やまちづくり団体、企業、行政機関等で構成する（仮称）海辺のまちづくり連絡協議会の設置検討
- 組織は、活性化の取り組みに関する情報共有・交換、企画立案、連絡調整などの役割を想定

5 稲毛・幕張海浜エリアの活性化フレーム

(1)海辺エリアのゾーニング計画

①ボールパークの海辺ゾーン

QVCマリンフィールドや（仮称）JFAナショナルフットボールセンターを核に、複合的なスポーツ・レクリエーション、健康と癒しに関するサービスを提供するとともに、海辺の眺望を楽しめるゾーン

②プロムナードの海辺ゾーン

人工海浜や海浜公園、周辺地域をつなぎ、空間的な連続性を演出して回遊性を高めることで海辺エリアの一体化を図るゾーン

③マリンスポーツの海辺ゾーン

ヨットやウインドサーフィンなどのほか、新たなマリンスポーツを通じて、海に親しみ、海を楽しめるゾーン

④歴史と自然の海辺ゾーン

海岸の自然や歴史、文化を感じられ、ビーチと一体となった広大なオープンスペースのあるゾーン

⑤ファミリーレジャーとスポーツの海辺ゾーン

稲毛海浜公園プールや各種スポーツ施設が立地し、ファミリーを中心にスポーツ・レクリエーションが楽しめるゾーン

(2)活性化方策のイメージ

①ボールパークの海辺ゾーン

- ハード
 - ・海を見通せる「なぎさプロムナード」
 - ・砂浜に車でアクセスする「ビーチライン」
 - ・海の眺望を楽しめる「海上レストラン」
 - ・健康と癒しのマーケット「賑わい施設」
 - ・地場産品を販売する「賑わい施設」
- ソフト
 - ・健康と癒しのパッケージツアーの実施
 - ・スポーツや音楽のビーチイベントの開催 etc

②プロムナードの海辺ゾーン

- ハード
 - ・稲毛～幕張の砂浜をひと繋ぎにする砂浜の歩行空間「ビーチウォーク」
 - ・海を眺めてひと息「シーサイドカフェ」・「展望駐車場」
 - ・少しの時間でも気軽に「海釣り」
- ソフト
 - ・海辺エリアの魅力発見・PR（写真コンクール等）の実施 etc

③マリンスポーツの海辺ゾーン

- ハード
 - ・いろいろなマリンスポーツを体験できる「ヨットハーバー」
 - ・さまざまなスポーツを楽しむ人向けのサービス施設「スポーツ支援施設」
 - ・海辺のロケーションで特別なイベントを行える「レストラン・ホール」
 - ・気軽にアウトドアを楽しめる「デイキャンプ場」
- ソフト
 - ・マリンスポーツの大会の誘致 etc

④歴史と自然の海辺ゾーン

- ハード
 - ・東京湾を一望できる「富士見の丘」
 - ・和のイメージエリアを形成する海気館がモチーフの「日本建築」、庭園、「歴史的モニュメント」
 - ・市民による手作り花壇「市民ガーデン」
- ソフト
 - ・海辺エリア全体が会場の回遊型フラワーイベントの開催
 - ・稲毛民間航空記念館での子どもの科学教室
 - ・海辺のプレーパークの開設、自然観察会の開催 etc

⑤ファミリーレジャーとスポーツの海辺ゾーン

- ハード
 - ・インドアスポーツを導入するための「屋内プールの転用（ニュースポーツ等）」
 - ・砂浜でスポーツ「ビーチスポーツサイト」
 - ・市場でらくらくショッピング「スカイブリッジ」
- ソフト
 - ・プールの通年利用（ウォータースポーツサイトの開設、イルミネーションイベントの開催など）
 - ・都市型サマーキャンプの開催 etc

海辺へのアプローチ空間

- ハード
 - ・なぎさプロムナード【再掲】・ビーチウォーク【再掲】
 - ・ビーチライン【再掲】・短時間利用の駐車場
 - ・乗降自由なレンタサイクルシステムの構築
 - ・BRT・LRT等の新交通、幕張の浜・ヨットハーバー・千葉中央港地区を結ぶ水上バスの導入検討
- ソフト
 - ・オープンカフェなど沿道空間の賑わい創出
 - ・オープンバス、パークトレインによる海辺エリアの周遊

都市のマネジメント組織のイメージ

【構成】

市民・まちづくり団体

民間企業

大学・学識経験者

協議会（統括）

ワーキンググループ

ボールパーク

プロムナード・アプローチ

マリンスポーツ

歴史と自然

ファミリーレジャー・スポーツ

【機能】

《情報共有・交換》

相互連携を深める主体間のネットワーク形成

《企画立案》

活性化方策の企画立案・実現化の検討

《実践》

資金や担い手の確保・活動場所の確保

【行政による支援】

- 組織の運営支援
- 活動費用の助成
- 活動場所の提供
- 人材の育成（地域リーダー）
- 情報発信・PR
- 他の行政機関との調整
- その他

※上記の活性化方策は、実現性が期待される効果、社会経済情勢の変化、利用者のニーズ、民間事業者の意向などを勘案しながら、実現に向けて検討を進めていくものとします。
※幕張海浜公園・幕張の浜・検見川の浜は千葉県が管理する施設であり、記載の内容については、千葉市独自の提案として取りまとめたものです。